



写真1：平松元市長視察の様子

写真2 小学校東側道路の屋台(左:2009年6月・右:撤去後12月)

写真3：拡大会議の様子



写真4-上：(左)覚せい剤キャンペーンのチラシ・(右)イベント当日の様子

写真5-下：(左)北公園草刈り作業 (右)整備後の北公園

## 6. 多様な主体が共存するまち：からんだ糸を紡ぎなおすまちづくりへ

図2は、拡大会議が国土交通省「住まい・まちづくり担い手事業」(2011)への提案事業として『あきらめない! 共床共夢”型まちづくり連携事業』を受けた際、地域の各主体へのインタビューをもとに筆者が作成した関係図である。この調査を通じて得られた注目すべき点は、地域には100近い団体が多種多様な活動を繰り広げているものの、同一テーマの関係組織内で閉じており、別テーマの組織とはほとんどつながっておらず、情報共有されていない状態にあった。なかには関係が深いのが故に生じる「同じテーマ組織間の軋轢」と「他テーマ組織への不信感・無関心」、そして「個人と団体のあいまいな関係性」が複雑に絡み合っていた。

これが、各主体間の不信と対立を生み出す構造(要因)の一部であった。また、行政や警察に対する地域の不信感については、「地域の問題や要望を各行政部局に訴えた際に、“一方的(個別)要求では、地域にある多種多様な団体の同意が得られない。”ことを理由に無策状態をつくっている。」に集約されていた。また、「暴動」を起こさせないことと、この場所に問題を集積・顕在化させておくことで、他地域への拡散を防ぐことが暗黙の了承事項であったとされている(と地域リーダーの多くが考えていた)。一方で、幅広く各団体との関係を持つ組織や個人の存在があることに気づき、まずこれらの主体がつながるテーブル作りからはじめながら不信と対立を生む要因である行政への個別対応から脱却し、つながることのできるテーマとそのためのも場づくりを目指すこととした。その場が拡大会議である。

拡大会議設立にあたっては、幅広い個人的ネットワークを持っていた萩之茶屋第6町会会長(当時の西口宗弘会長)が各主体のリーダーに呼びかけて当初10団体からスタート、テーマによって多様な主体が参加する緩やかな情報共有・検討の場となっている。現在、府・市・区・警察も参画するなど、立場や違いを超えてつながる全国的にも稀有な自然発生的な「プラットフォーム」

へと深化している（表4）。

地域で行われる各種会議や施策推進、まちづくりの課題やビジョンづくり、連携のあり方などについて、まずは、この拡大会議で互いの思いや意向や情報を共有するブレーストリングの場として位置付けられてきている。また、会議後にメンバーと共に食事をする機会をつくったことで、肩書を超えたつながりと相互理解の場ができたことが大きい。いわば拡大会議は、同じフィールドに立ちながらも言語やルールが違う世界で戦っていた人たちが、「違い」を知ることから始まり、想いを表し、誤解を修正し、一部では認めていく、まちづくりのルール作りとゴールを目指す場になっていった。とくに鈴木巨大阪市顧問をはじめ、民間区長であった臣永正廣西成前区長による拡大会議をはじめとする地域活動への積極的な参画を契機に、各担当行政メンバーと地域との関係が育まれたといえよう。複雑に絡まった関係にあり、一方を引っ張るといような場所で固い結び目ができ、強く引っ張ると切れてしまう。これまでの活動は、まさに「からんで纏れた糸をほどき、紡ぎなおす」まちづくりの始まりでもあった。

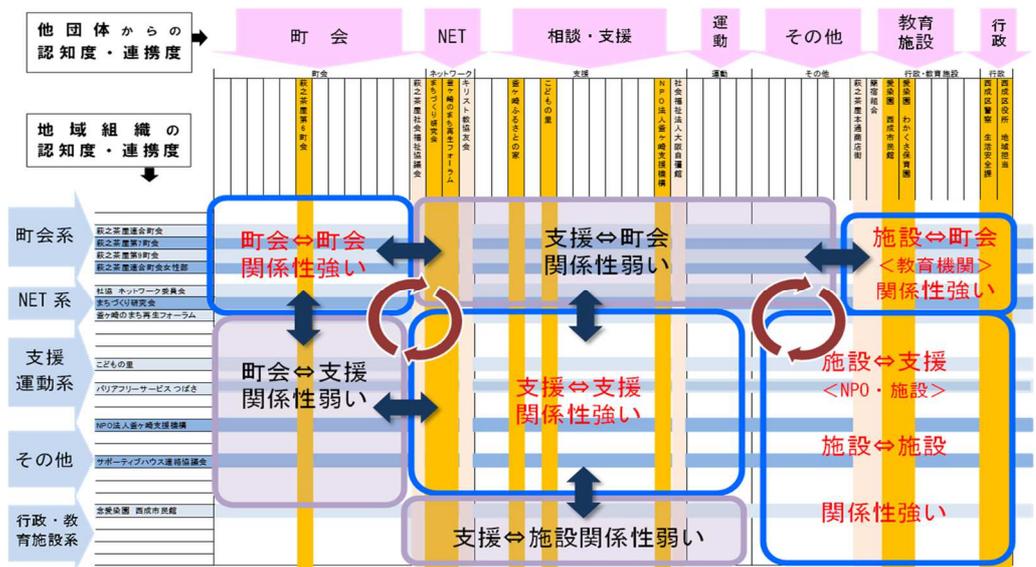


図2 あいりん地域における各種団体の連携度（寺川,2011）

表4 拡大会議の所属団体（参加主体は確定しておらず、随時参加していただいている）

<ul style="list-style-type: none"> <li>こどもの里</li> <li>社福 大阪自彊館</li> <li>大阪府簡易宿所生活衛生同業組合 (簡宿組合)</li> <li>特非 釜ヶ崎支援機構</li> <li>釜ヶ崎のまち再生フォーラム</li> <li>釜ヶ崎キリスト教協友会</li> <li>釜ヶ崎資料センター</li> <li>釜ヶ崎ふるさとの家</li> <li>萩之茶屋社会福祉協議会</li> <li>萩之茶屋小学校・今宮中学校周辺まちづくり研究会(萩・今まちづくり研究会)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>認特非 こどもの里</li> <li>いまみや小中一貫校</li> <li>社福 大阪自彊館(三徳寮)</li> <li>簡宿組合</li> <li>特非 釜ヶ崎支援機構</li> <li>釜ヶ崎のまち再生フォーラム</li> <li>西成市民館</li> <li>社福 大阪自彊館(三徳寮)</li> <li>いまみや小中一貫校</li> <li>萩之茶屋本通商店会振興組合</li> <li>釜ヶ崎キリスト教協友会</li> <li>釜ヶ崎ふるさとの家</li> <li>社福 わかくさ保育園</li> <li>萩之茶屋社会福祉協議会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>萩・今まちづくり研究会</li> <li>萩之茶屋まちづくり合同会社</li> <li>釜ヶ崎ストロームの家</li> <li>コロールム</li> <li>西成 WAN</li> <li>西成労働福祉センター労働組合</li> <li>大阪国際ゲストハウス地域創出委員会</li> <li>サポーティブハウス連絡協議会</li> <li>大阪府商工労働部雇用推進室</li> <li>西成警察署</li> <li>大阪市福祉局/建設局公園管理課</li> <li>西成区役所</li> <li>西成労働福祉センター</li> </ul> <p>* 大学関係者・メディア他 随時</p>
--	--	---	--

## 7. 西成特区構想の推進とまちづくりの議論

### (1) 特区構想と「まちづくり構想」

橋下インパクトは、地域を揺るがしたが、ある意味で「まちづくり」のこれまで積み重ねてきた活動や取り組みを整理する良い機会になった。これまで作ってきたまちづくり構想を見直しつつ、新たな構想にむけた契機でもあった。多様な活動があるものの「まちづくり構想」という形でのまとめは少なく、私の知る限り次の3つがある。

① 研究会+拡大会議によるまちづくり構想

2008年、研究会ではその活動の目的であった「まちづくり構想案」(図4)を作成、拡大会議がその構想を肉付けしている。その構想案は、①子どもの声が聞こえるまちづくりにしよう。②「いざ」という時にこそ強い安全安心の街づくりを進めよう。③マイナスイメージをプラスに活かすまちづくりを進めよう。という3つのコンセプトに基づく6つのテーマと具体的な活動を示したものである。



図3 まちづくり研究会と拡大会議が提案したまちづくり構想(寺川,2008)

② 釜ヶ崎のまち再生 21世紀ビジョン(図3)

長年、まちづくりを主導していた再生フォーラムでは、幾度にもわたる情報共有やワークショップを通じて、「釜ヶ崎のまち再生 21世紀ビジョン」(2009)を提案している。Pride, Peace, Participationという3つのPをコンセプトとする「釜ヶ崎まちづくり憲章」をあげ、「居住のはしご」という3つのステージに分けた段階的なまちづくりの提案である。多様な事業イメージにまで踏み込んだ詳細な提案となっている。

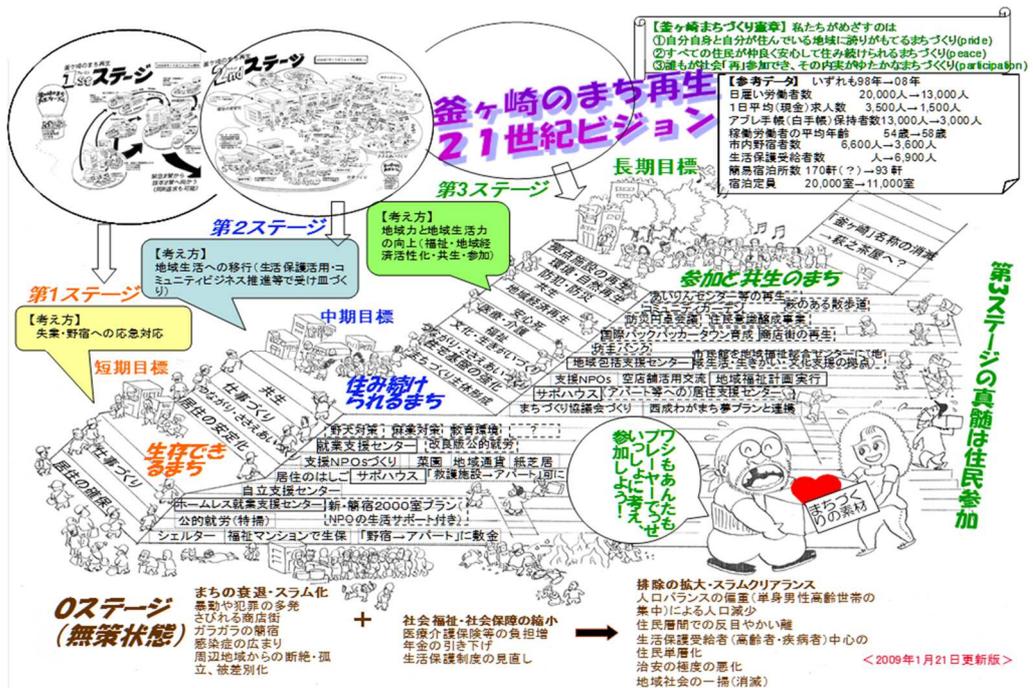


図4 (釜ヶ崎のまち再生フォーラム資料/作図:ありむら潜,2009)